

第 1 号議案 令和 3 年度事業報告

1. 令和 3 年度通常総会報告

令和 3 年の総会は予定通り開催され、以下の通り承認されました。

第 16 回通常総会 令和 3 年 6 月 6 日(日) みんなのおうち「ゆいゆい」

出席者 132 名 (本人出席 12 名 委任状出席 120 名) 会員総数 248 名

審議事項

第 1 号議案 令和 2 年度事業報告について承認の件

第 2 号議案 令和 2 年度収支決算報告書及び監査報告について承認の件

第 3 号議案 令和 3 年度事業計画について (案) 承認の件

第 4 号議案 令和 3 年度収支予算について (案) 承認の件

第 5 号議案 役員改選の件 新任 和賀未青氏

2. 令和 3 年度総括

1) 団体の基盤作り

・法人格を取得し活動して 15 年を経過し、常勤・準常勤職員 17 名、扶養の範囲上限で働く職員 20 名、その他パートスタッフ 30 名、アルバイトスタッフ 40 名 計 107 名である。

利用者を守ることに、より良いサービスを提供することに、必死に取り組んできた。マンネリ化しないよう、常に利用者の声を大事に事業を興し、組み立ててきて今に至っている。

団体内の働き方の格差を最小限に、働く職員も大事にされる様な組織としての健全な体制作りが求められる団体としての成長期に入ってきた。

一部のスタッフに仕事量の比重が偏っている現実を変えること、子育て経験のあるベテランスタッフが 15 年の年月を重ね、子育て経験がない若いスタッフを受け入れていくこと、指示系統が明確な組織づくりを目指し取り組んでいく。その為の団体として余裕のある資金の確保に努力していかねばならない。

・日曜・祝日・年末(年始 3 日のみ休み)に一時保育を利用できる施設はなく、主に仕事をしているご家庭のお子さんが利用している。預かるお子さんの年齢も 0 歳～小学 3 年生ぐらいと幅広く、保育時間も早朝～翌日までと長い。常勤職が増え平日日中の一時保育は安定したが、日曜・祝日に従事するスタッフの負担は大きく、緊急 24 時間の一時保育の体制作りが大きな課題である。このようなニーズを受け入れられる多機能を持つ認可保育園(0 歳～5 歳児)の運営を目指したい。

2) 広報の見直しと充実

- ・ホームページやインスタの更新で最新の情報を届け、メールで申し込みをうけるという形が定着
- ・あいあい通信は、新生児訪問の時に手渡していただけるように 700 部作成。
- ・今後は、YouTube や動画配信を用いた情報発信と、団体としての理解を得る媒体作りに役立つ。

3) 妊娠期からの切れ目のない支援(ウイズアイ独自のネウボラ事業)の充実

(1) 新米ママと赤ちゃんの会の充実と普及

・コロナ禍もあり、参加者が平均 5~6 人程度である。ほとんどが、清瀬在住 3 年未満の転入したばかりの人が多くの特徴である。

毎回、理学療法士が入り、発達のお子さん早期にフォローできる体制が作れた。または母親にも子どもにも優しく負担の少ないだこの仕方を具体的に伝えられたことは大きかった。

要望されれば、送迎に応じている。孤独な育児から解放され、仲間とともに育ちあえる、この会をもっと知っていただき、参加者を増やしていきたい。

(2) つどいの広場事業&赤ちゃんひろばの充実・いきいき子育て支援事業

・コロナ禍の中、野塩つどいの広場が改修工事となり 7 か月間使用できなくなったが、野塩老人憩いの家とゆいゆいを借り、工事期間中も継続して事業を行った。

野塩老人憩いの家では、「むらさき会」の会員の皆様に大変お世話になり、多世代交流ができた。民謡や尺八など、日本の古き良き文化にふれる貴重な機会となり、今後も継続して交流していきたい。

・あおぞら広場の取り組みが定着…回を重ねるごとに参加者が増え、親子で散歩しながら自然にふれる体験は、開放感があり、室内では見られない親子の姿をみることができ、たくさんの新たな発見があった。より一層拡大していきたい。

・市内 5 カ所で赤ちゃん広場を開催…0 歳からの仲間作り・地域作り～思春期に花開く子育て～

(月曜日・午後 月に 2 回あいあい) (火曜日・午後 毎週・市民活動センター)

(水曜日・午前 月に 2 回コミュニティプラザひまわり)

(木曜日・午前 毎週・下宿つどい) (木曜日・午前 月に 2 回 野塩センター2 階和室)

(金曜日・午前 毎週・野塩つどい) (日曜日：午後 月に 1 回隔月 下宿センター・ゆいゆい)

ファシリテーターが入り、参加者を安全につなげる。専門職(栄養士・理学療法士・助産師・発達支援コーディネーター)が入り相談を受け、地域の読み聞かせボランティアさんによる、絵本や手遊びを紹介。委託事業と独自事業を組み合わせ実施、赤ちゃん専用広場の展開は、他市にはない取り組みである。今後はさらに、地域の中で身近な敷居の低い子育て支援拠点として、より充実した事業を安定的に展開していきたい。

4) 行政との連携・産前産後の養育支援ヘルパー事業の充実

・ウイズアイならではの支援が出来た

・お弁当の宅配サービス

・一時保育サービス・送迎サービス

・産後ドゥーラの育児及び家事支援サービス

・要支援家庭の産後ディケア

・養育困難家庭には、独自で、積極的に家庭訪問を実施したり、二人体制で支援に入る等、サービスの提供と母親の傾聴が出来る仕組みづくりが求められていると切実に感じた。

個々の家庭の実情に応じて回数など柔軟な対応が求められる為、子ども見守り事業補助金を活用し、隙間を埋めていきたい。

5) 新型コロナウイルス感染拡大のための対策

・東京都保健局より、コロナ抗原検査キットが供給されるようになり、定期的に検査が可能になり、安心して従事できた。

・一年を通じて、感染の拡大もなく滞りなく、事業を遂行できたことに感謝したい。

3. 令和3年度事業報告

1) 助成事業

独立行政法人 福祉医療機構 社会福祉振興助成事業 WAM 助成

※詳細は別冊の事業報告書をご参照ください。

【総事業費】 7,373,198 円 助成額 7,000,000 円

【事業名】 子ども・若者の安心・安全な場づくりと自立を応援する事業

【事業の柱立て】

柱立て1：10代、20代の自立支援事業
<p>宿泊利用7泊、SOS対応での利用8回</p> <p>若者サロン時の食事提供、調理補助での就労支援</p> <p>火曜日39回、食事提供数185食、サロン利用者数のべ222人</p> <p>学習支援、学生ボランティアのべ74人（居場所含まず）</p> <p>料理体験8回3名のべ15名、付き添い含む母参加のべ7名</p> <p>中間的就労支援（就労訓練）：ジョブコーチ1名のべ15回、就労支援3名のべ127回</p> <p>プログラミング講座11回4名のべ16名参加</p> <p>同行支援15回、打ち合わせ・ケース会議7回</p>
柱立て2：家族まると支援事業
<p>●不登校の子どもの居場所の運営 平日9時30分～16時開所 年間</p> <p>開所日184日、利用者実人数21名のべ574人平均利用者数3.12人/日</p> <p>問い合わせ、見学 27件</p> <p>登校支援65件 送迎37件</p> <p>保護者面談 10件</p> <p>大学生ボランティアのべ49人（学習支援含まず）</p> <p>大学生見学・研修の受け入れ 13人</p>
柱立て3：コミュニティソーシャルワーク事業の展開
<ul style="list-style-type: none"> ・定例ミーティング、カンファレンスの開催25回のべ256名 ・「そらカフェ」オープンミーティング5回のべ18名参加スタッフのべ10名 ・支援者向け公開講座の開催 参加78名（会場25名+Zoom53名）、スタッフ11名

【成果】

- ・若者の自立支援では、就労支援、学習支援、同行支援といった個々人に寄り添った支援を行った。
- ・小学生の不登校の居場所事業では、低年齢化と課題を抱えた児童とご家族に寄り添い、面談や学校との連携を図った。同時に、親支援事業も継続し、支援者ネットワーク構築を目的に開催した講演会は、当団体初の会場&オンライン同時開催にチャレンジし多くの方にご参加いただいた。

【課題】

- ・当団体の方向性を定めず柔軟な対応をしてきたが、学習のあり方や生活環境が多様化する中、当団体の方向性を提示する必要性を感じた。様々な考え方を否定せず、本人とご家族の要望に応えながら、様々な選択肢を提供し、地域資源を活用するために、日々学び、情報共有を怠らず、学校や支援団体とのさらなる連携

強化が必要である。

子供の未来応援 未来応援ネットワーク事業

※詳細は別冊の事業報告書をご参照ください。

【総事業費】 7,166,961 円 助成額 3,000,000 円

【事業名】 養育困難家庭の子育て応援とシングル家庭の親の就労を応援する事業

【事業の柱立て】

柱立て1：十代の親と養育支援家庭の就労及び学業継続のための病後児保育
病後児保育：対象者数 7 世帯 実数 8 人、延べ 20 件 目標達成率 19% スタッフ研修：医療的ケア児の研修受講者 12 名、救命救急講座、乳幼児の睡眠講座
柱立て2：養育困難家庭及び精神疾患治療中の就労・学業支援
お泊り保育：対象者数 6 世帯 実数 7 人、延べ 181 件 目標達成率 215% 日曜・祝日の一時保育：対象者数 29 人 日曜日 197 件 祝日 67 件 目標達成率 262%
柱立て3：養育困難（出産後 4 か月未満を含む）家庭の平日の保育（低料金での実施）
平日の一時保育：対象者数 49 人、延べ 462 件 目標達成率 128%

【成果】

- ・対象家庭の一時保育について、日曜・祝日は 9 時～17 時まで 3,500 円、親が病気治療中の家庭は一日 2,000 円と預けやすい価格設定ができたことで、利用者の増加に繋がった。
- ・在宅で 3 歳未満のお子さんを 2 人以上育てている家庭や、多胎児のいる家庭の育児負担感が大きく、虐待と紙一重の危機感を感じる。特に第 1 子を子育て中の方々は、心身共にストレスが大きく、産後うつを発症していると思われるケースも多い。送迎付きで一時保育 4 時間無料チケット(8 枚綴り)を発行し、保育料の軽減を図った。預ける事でリフレッシュされ、応援して貰っていることを肌で感じられ、エンパワーでき、その後の一時保育の利用に繋がった。

【課題】

- ・保育園の開いていない時間帯に預かり、貧困家庭の応援を目的に取り組んだ事業であるが、1 泊 2 食付き 5,000 円は低料金とは言え、シングル家庭が複数回に利用するには負担が大きく、利用者の拡大には至らなかった。
- ・市内の保育園での周知徹底や、連携団体様からの協力を得られるよう事業の趣旨を説明し、広報強化のご協力を仰ぎたい。
- ・養育支援、困難家庭専属のソーシャルワーカーをスタッフに加えていきたい。コーディネーターとして入り、サービスを使う時は同行する。週に 1 回はフォローのための訪問等、ニーズを確認し、小さな困りごとに早めに対処できるような仕組みを作っていきたい。
- ・コロナ禍で交流しにくく、実家を頼れない家庭が増えている現状を鑑み、これからの子育て支援は家庭訪問による支援に重点を置く必要があると考える。引きこもらず、子育てできる場所を増やしたい。
- ・保育スタッフの引継ぎ方法や個人情報共有について研修を行い、組織として万全な体制を整えたい。

キューピーみらいたまご財団助成プログラムA「食育活動」

※詳細は別冊の事業報告書をご参照ください。

【総事業費】 1,340,521 円 助成額 1,000,000 円

【事業名】 産後デイケアを中核とした地域共生型の母子包括支援事業

【事業の柱立て】

柱立て1：個別型 産後デイケア事業 (※計画に一部変更あり)
実数 54 人 延べ 70 件
母乳ケア：実施回数 18 回 延べ 18 件 産後ヨガ：実施回数 15 回 実数 20 人
骨盤体操：実数回数 16 回 実数 22 人 ショートステイ：実施回数 2 回
訪問支援(アウトリーチ)：実数 4 世帯、実施回数 延べ 8 件
柱立て2：おんぶ de クッキング講座
実施回数 11 回、実数 35 人 延べ 45 件
柱立て3：食育講座の定期開催
離乳食講座：実施回数 10 回、実数 35 人 延べ 45 件
手作りおやつ講座：実施回数 10 回、実数 35 人 延べ 45 件

【個別型産後デイケア事業における計画の一部変更の背景】

- ①コロナ禍による緊急事態宣言の延長により外出自粛が続き、養育支援ヘルパーやファミリーサポート事業等、アウトリーチ型の家庭訪問事業を選択する可能性が高まった。
- ②パートナーがリモートワークになり、家事や育児を分担するケースが増加傾向にあった。
- ③つどいの広場事業において、プレママ・プレパパを対象とした「マタニティひろば」を設けた。また自粛要請に伴う試みとして「おんらいんママパパのしゃべりば」を開設した。

【成果】

・行政で受けるサービスに近い利用料の設定が出来たことで、ケアを受け易くした。復職前の母乳育児ママの相談にゆっくり対応できることで、働くママの応援になったと強く感じる。緊急性のある母乳ケアにおいて、特に発熱を伴う乳腺炎のケースでは電話対応あるいは感染予防をしながらの訪問対応を速やかに行った。居住地の公的産後ケアが受けられ、利用者には紹介して地域に繋ぎ、サービスがない地域の利用者にはとても喜んで頂けた。

・おんぶ de クッキング、離乳食講座、手作りおやつなど、いずれもリピーターが多く、満足度 93%以上の回答を得、スタッフにとっても有意義な事業であったと考える。

【課題】

・本事業について、他の講座に参加した際にスタッフに勧められた参加者も多かったことから、他事業に関わるスタッフへの周知を図り、情報共有の場を持ち、今後の参加者拡大を目指したい。

・『家庭で料理を学んでこなかった』と認識しておられる方々は、特に料理に対する苦手意識を持っており、自信の無さが離乳食の実践に大きく関与していると感じた。コロナ禍を踏まえ、安心して参加できる食育講座を模索し、多様化するニーズに応えていきたい。

清瀬市対象児童等見守り強化事業

【総事業費】 11,582,524 円 助成額 9,723,000 円

【事業名】 地域のネットワークと団体内部を横断した取り組み

【事業の柱立て】

柱立て1：子ども等の状況の把握
未就園児の新規登録者数 347 名 夜間の乳児一時預かり保育にスタッフ 2 名体制で対応 つどいの広場事業(2 拠点)における見守り対象家庭 野塩 14 世帯/延べ 42 人、下宿 6 世帯/延べ 6 人 保護者の経済的負担軽減を目的に、一時保育の無料チケットを発行
柱立て2：食事の提供（配達等を含む）
延べ 795 食（親子食堂：262、宅配 127、夕食提供 180、居場所ランチ 70、食育関連 156） ※食材費の按分 ①お泊り夕食：子供の未来応援基金 ③親子食堂：東京都「子供の食の確保」交付金 ③夕食提供：青少年の交流サロン 福祉医療機構 WAM ④食育講座：キューピーみらいたまご財団
柱立て3：基本的な生活習慣の習得支援や生活指導
体験の場づくりとして、課外活動を実施（稲刈り体験、昭和記念公園、 （対象家庭：ひとり親家庭、親が疾患をお持ちのお子さん、不登校経験者、引きこもりがちな若年無就労者） 進学及び就労または一人暮らしに関する相談支援、心療内科の受診同行、交流サロンへの送迎 （対象者：実家が機能していないと思われる十代・二十代の若者）
柱立て4：学習習慣の定着等の学習支援
登校支援の実施：不登校児の低年齢化に伴い、児童を学校に繋げるための早期対応 体力低下の抑止：定期的に学校に行く機会を設け、体育館で体を使った遊びを実施

【成果】

- ・専任スタッフを配置し、団体が実施する一時保育事業、つどいのひろば事業、産後デイケア事業、新米ママと赤ちゃんの会での送迎、不登校の子どもの居場所、ひとり親家庭対象の親子食堂など、多方面からアプローチ可能な体制を整え、乳児から若年層まで見守る機会の減少抑止につなげた。
- ・地域の社会資源や児童養護施設、子ども食堂連絡会等と連携を図り、支援対象家庭における児童および高校生以上の学生、若年未就労者の状況を定期的に確認し民生委員や主任児童委員への情報提供を行った。

【課題】

- ・人材の育成。次年度以降は独自事業として取り組むため、支援者の輪を広げたい。
- ・資金の確保。同上の理由により、民間助成金などの申請を視野に入れ、事業の継続を図りたい。

東京都子供の食の確保 交付金（対象：ひとり親家庭）

【成果】

- ・実施回数 24 回、延べ 262 件（0 歳～17 歳の児童 延べ 178 人、児童の保護者 延べ 84 人）
- ・保護者や子どもたちの SOS 発信に随時対応できるよう定期的に連絡するよう努めた。
- ・精神疾患をお持ちで子育て中の方など養育困難家庭へのお弁当の宅配も積極的に実施した。

【課題】

- ・宅配に際し、お弁当を配達する人材を確保したい。

2) 受諾事業

(1) つどいの広場事業

	実施回数	参加者数			従事人数	相談件数
		親	子	総数		
下宿つどいのひろば	303	3073	3357	6430	640	1091
（下宿 赤ちゃんひろば）	52	413	413	826	104	—
（パパもいっしょに）	12	20	20	43	—	—
（パパもいっしょに）	18	1	2	3	—	—
（あおぞらひろば）	12	98	98	196	31	—
（工作）	175	—	—	1759名	—	—
（子育て相談）	6	—	—	24件	6	—
（食育相談）	12	—	—	54件	12	—
（身体の相談）	12	—	—	18件	12	—
野塩つどいのひろば	293	2609	3715	6324	689	1379
（野塩 赤ちゃんひろば）	41	194	194	388	92	—
（親子でふれあい遊び）	5	28	28	56	10	—
（ベビーマッサージ）	9	33	33	66	14	—
（手形足形で遊ぼう）	3	24	24	48	6	—
（復帰ママおしゃべり会）	1	6	6	12	2	—
（絵本講座「赤ちゃんと絵本」）	1	10	10	20	6	—
（絵本講座「性のおはなし」）	1	4	4	8	3	—
（あおぞらひろば）	10	66	79	145	25	—
（工作）	60	—	—	145	—	—
（子育て相談）	5	—	—	12件	5	—
（食育相談）	15	—	—	89件	15	—
（身体の相談）	11	—	—	11件	11	—
あいあいつどいのひろば	293	2609	3715	6324	689	1379
（あいあい 赤ちゃんひろば）	41	194	194	388	92	—
（絵本の日）	5	28	28	56	10	—
（オンラインつどい）	9	33	33	66	14	—
（オンラインママパパのしゃべりば）	3	24	24	48	6	—
計	651	6143	7643	13786	1512	2786

つどいの広場

【下宿】

・昨年に引き続きコロナ対策をしながらの開催となる。途中、コロポックル閉鎖期間があったため、中清戸、下清戸、元町などからの利用が増加した。

・あおぞら広場は戸外で密を気にせず、親子一緒にのびのびと遊ぶことができた。ゴロゴロからヨチヨチまで長いスパンで共に子育てを共有できる環境づくりを、緑豊かな環境の中で親子の五感育成の一助に寄与する取り組みであると改めて実感した。

【野塩】

・野塩地域市民センターが耐震工事のため、8月から2月まで野塩老人いこいの家とゆいゆいの2か所で行った。

世代間交流が実現したため、今後も継続し、取り組みたい。

・コロナ禍で室内のつどいの広場を利用するのが不安な方のために、月2回外遊びを開催した。

・行動制限があったり、感染リスクが高い場所で働いており、つどいの広場を利用したくても利用できない方のため、オンラインでつどいの広場をおこなった。

・3月に野塩地域センターで再開し、オモチャや棚の配置を変えた。利用者からは使いやすいと好評である。

	令和3年度成果	次年度への課題
下宿 つどいのひろば	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅ワークの父親が子どもと利用するスタイルが増加した。また、2時間滞在可能な利用者に喜ばれた。 ・隣接するどんぐりルームの保育環境を知って頂く機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・清瀬の端に位置し、交通手段も限られているので、ここでの子育て仲間作りや親の学びが広がる講座などを意識的に開催したい。
下宿 あおぞら広場	<ul style="list-style-type: none"> ・自然と触れ合い、子ども達が自ら興味のあるものを見つけ、楽しむ事ができた。 ・ヨチヨチ歩きの子が、靴を履き外遊びデビューをするきっかけとなった。 ・他児の行動をみて、真似したり、一緒にやってみる姿がみられ、戸外でお友だちと遊ぶ楽しさを味わえた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・四季の変化や参加者の年齢、個々の経験を瞬時に判断し、当日のコースを決める保育リーダーの育成、スタッフのスキルアップを図りたい。 ・月齢の違う子皆が楽しめる過ごし方を更に工夫したい。 ・暑い時期の熱中症対策
野塩 つどいのひろば	<ul style="list-style-type: none"> ・老人いこいの家を共有したことで、地域のお年寄りや、つどいの広場利用者の世代間交流が実現した。 ・児童館職員と連携し、赤ちゃん講座やイベントが重ならない様配慮した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続し、世代間交流に取り組みたい。 ・3月から再開したが、現状ではプライベートな話しがしづらく、授乳スペースの確保も難しい。
野塩 あおぞらひろば	<ul style="list-style-type: none"> ・外遊びが難しいお子さんのため、通常のつどいも開放し、喜んで頂いた。一度参加してくれた利用者は、その後も継続して参加してくれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前で近くに公園がないため、外遊びの場所の確保が難しい。また人材の確保が厳しい。
野塩 ベビーマッサージ	<ul style="list-style-type: none"> ・開場の変更に伴い、人数は減少したが、1人1人に対応でき、スキンシップの大切さを伝えることができた。 ・赤ちゃん和妈妈の体調に合わせた、入浴前や入眠前、起床時など短いパタ 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加人数の減少を考慮し、赤ちゃんひろばでの「ふれあい遊び」と「洋服の上から行うマッサージ」に変更した。

	ーンで紹介。実践した方からは寝付きが良くなったなどの感想が挙がった。	
野塩 ふれあい遊び	・リズム遊びやリトミックの入門、又、お家で出来る簡単な楽器の製作を行った。作業中はお子さんをママ同士見合うなど、楽しく会話する場面もあり、音楽が心を解し人と人とを繋ぐことを実感できた。	・参加人数の少なさや対象年齢の幅の難しさから、歩き始めた子を対象にした「よちよち親子遊び in 野塩」として引き継いだ。スタッフの専門性を活かしたプログラムを組み直したい。
野塩 赤ちゃんひろば	・専門相談の充実。食や身体の相談日、ふれあい遊びを取り入れ、栄養士、理学療法士、ベビーマッサージ講師がスタッフとして入り、ひろばの中で気軽に相談できる場になった。個別相談時間も設け、ママ達の不安や疑問に速やかに対応した。 ・育児書やスマホでは得られない生の情報と交流を貴重とする感想が多い。	・よちよち歩きの会を新設し、赤ちゃんひろばを卒業したよちよち歩き~1歳半までの親子対象の場をつくりたい。
野塩 赤ちゃんのチカラプロジェクトへの参加	・つどいのひろばと学校の教室をZoomでつなぎ、赤ちゃんの動きを見てもらい、ママ達に児童からの質問に答えて頂いた。児童たちの赤ちゃんへの関心や、妊娠出産、育児への質問を通し、児童たちの優しさを感じる事が出来た。 ・地域の小学校の様子を見る事が出来、良かったとの感想があがった。	・今後もママ達に育児の実践的講座に参加してもらうことで、安心して地域の中で子育てが出来る場を継続していきたい。 ・オンラインでの赤ちゃんのチカラプロジェクト参加の協力を呼び掛け、今後も地域の中での交流を大切にしていきたい。
野塩出張ひろば あいあいひろば 赤ちゃんひろば	・一時保育登録で来室、そのまま定着する流れが多く、リピーター率が高い。 ・赤ちゃんの午睡や離乳食の時間で、あいあいと野塩を上手に使い分けている印象を受けた。 ・ボランティアの方による絵本読み聞かせが、赤ちゃんだけでなく親も癒される、と参加者より好評を得た。 ・少人数の際はママのストレッチやおんぶのやり方にじっくり対応する事ができ、参加者の身体の負担軽減に繋がった。	・駐車スペースが足りず、雨の日や梅雨時は普段より圧倒的に参加者が少ない。その際開催内容を熟考したい。 ・初参加者へのリラックスできる雰囲気作りを徹底していきたい。 ・足元の見えない抱っこママに対し、玄関の段差に配慮したい。

絵本ひろば	コロナ禍で各所で中止が相次ぐ中、足繋く通って来る親子の姿が見られた。親同士の交流の時間も取り、賑やかな話し合いの場を設けた。数多く参加して下さる方の中から、絵本講師の講座を受講される方がおり人材育成の場ともなっている。	講師が一人でやっている為、参加者が多いと動き回る子に目が届かない。
-------	---	-----------------------------------

つどいアドバイザー研修

日付	内部研修の内容	
4月26日	赤ちゃんの睡眠について	アドバイザーとして、何を学びたいかを話し合い、研修を組み立てている。スタッフのスキルアップにつながった。東京都主催の研修や、全国ひろば協議会が主催する研修に、積極的に受講し自己研鑽を積む姿勢が見られ、アドバイザーとしての自覚を感じた。 内部研修の他に、外部研修には野塩つどいアドバイザー延べ29名 下宿つどいアドバイザー延べ18名 計47名が受講した。
5月7日、6月21日	救急救命	
6月28日	赤ちゃん絵本	
7月5日	救急救命	
10月25日	言語発達と社会性	
11月29日	消防署訓練	
12月20日	青空ひろば・オンラインひろばについて	
3月7日	1年間の振り返り、次年度の活動について	
計	9回 延べ92名	

(2) 清瀬市いきいき子育て支援事業

事業名	実施回数	参加者数			従事者数			
		子	親	総数	講師/FA	会場係	保育	総数
新米ママと赤ちゃん会	43	239	240	479	44	41	100	185
ベビーマッサージ	11	74	74	148	12	10	0	22
パパママベビーマッサージ	9	36	72	108	17	2	0	19
双子三つ子の会	12	79	57	136	12	12	56	80
母乳相談(おっぱいママ)	11	10	10	20	11	0	0	11
NP講座	6	30	35	65	8	6	24	38
育み講座	7	33	35	68	7	7	27	41
CSP連続講座	7	21	51	72	21	0	22	43
CSP体験	1	5	5	10	2	0	5	7
親子遊びの会	17	164	151	315	17	34	13	64
すくすく親子教室	21	153	135	288	22	42	13	77
すくすくクッキング	1	8	8	16	1	2	6	9
防災講座	3	31	39	70	3	3	23	29
身体の発達講座	3	26	28	54	3	3	7	13
救急講座	3	40	42	82	3	3	23	29
絵本講座	1	12	12	24	1	1	10	12
事業計	156	961	994	1955	184	166	329	679

	令和3年度成果	次年度への課題
新米ママと赤ちゃんの会	<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策を徹底し、本来の2時間×4回、別室保育と同室で過ごす時間を確保して開催した。 ・東久留米市において健康課事業として同事業がスタートし、他市への普及が進む中、プログラム確立とデータ収集に向け、目白大学宇野研究室との新たなプロジェクト連携初年度ともなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者に確実に広報する仕組みづくりが必要。本講座は対象者が「生後2か月の第一子と母」と明確で、参加者同士が会話を通して学びあうことで成立するため、毎回8名以上の参加が理想的である。 ・コロナの為、参加者の確保が難しかった。新生児訪問指導員に、勧誘をして頂くが、新メンバーの参入があった為、プログラム効果は伝わりにくく、参加者確保がしにくかった。改めて、対象者が参加してみようと思う魅力あるチラシの検討が必要と思われる。
ベビーマッサージ	<p>コロナ渦で、母子の外出先が限られる中、安心して出かけられる場所としてお選び頂いていると感じた。</p> <p>手技を覚えてもらうというより、親子のコミュニケーションであり、他の親子とのコミュニケーションの場になるという主旨が伝わっていると思えた。</p>	<p>ご自宅にいて未参加の方に、どういう形で開催しているか知っていただく必要があり、新規の方のご参加につなげられればと思う。</p> <p>(HPに開催中の写真を載せるなど)</p>
パパママベビーマッサージ	<p>毎回定員一杯だったが、当日のキャンセルに対応できず、2~3組の時もあった。東久留米の赤ちゃん会で知っての参加もあり、親子で参加する講座が少ないことがうかがえる。</p> <p>下宿地域センターでの開催は、つどいの広場に誘うことができ、父親の育児参加に貢献できている</p>	<p>つどいスタッフがこの講座に出ることで、繋がるのではないかと、また、この講座が、父親の育児仲間意識形成に効果があるか、要検討ある。</p> <p>ゆいゆいでは、緊急時の保育場所の紹介だけでなく、その後の父親参加にも貢献できるよう再考したい。</p>
双子三つ子の会	<p>妊娠中から参加して、出産し参加して下さる方が増えてきた。</p> <p>参加メンバーは連続して参加され、多胎児育児の喜びと辛さを吐露しあえ、毎回涙と笑いの会となっている。育児用品、洋服等をリサイクルしあう場。</p> <p>4月から幼稚園にいく多胎児ママが保育スタッフとして従事予定。</p>	<p>多胎児パパのネットワーク作りに力をいれていく。</p> <p>多胎児の子育て家庭を支えていく為に、低価格の保育の提供、先輩多胎児のママ達を育児支援ヘルパーとして育成する仕組みをつくりたい。</p>
母乳相談(おっぱいママ)	<p>第4火曜日の午後、赤ちゃん広場で母乳相談を行った。つどいの広場で紹介されて卒乳相談で来所されたり、産後ケア対象の4か月以降での乳腺炎予防</p>	<p>母乳相談が出来る市の事業・産後相談で、問題解決が出来るので、対象を1歳ぐらいまで拡大した方がニーズにあっているのではないかと。減少要因に、母乳育児が、以前に比</p>

	に相談があった。	べ強く推奨されていないことも背景にあると思われる。
NP 講座	保育付の連続 6 回講座を 1 クール実施。お母さんたち自身もつ“自己解決力”を引き出すため、穏やかな自己開示を時間を追って促し、体験学習サイクルにのっとりた問題解決プロセスを用いた。講座ではあるが、ファシリテーターは進行役に徹し、参加者の意見を尊重して傾聴した。	対象年齢の設定が毎年悩まされる課題。近年、清瀬市の女性の就業率は年々高まっており、育児休業中の方は、0 歳のための講座が当団体で多く開催され充実している。一方、1 歳以上の親子を対象にすることで、専業主婦やパートタイムで幼稚園入園を希望する親子や、2 人目の育児休業中の方にも広く参加頂ける。利用者のニーズを把握したテーマ、年齢設定をしていきたい。
育み講座	0 歳児の親を対象にした育み講座を、連続 3 回で実施。0 歳の今だからこそ大切にしたい子育てを、参加者の気持ちに寄り添いつつ、答えのない「育み」について導き出した。女性の就業率が高い清瀬において、育休中の参加者を念頭に開催している講座である。	申し込み前に講座の内容を具体的に知りたい方にとっては、テーマが漠然としており、検討の余地がある。ニーズに対応した講座を誰が担当しどのように企画し実施するか検討したい。
CSP 連続講座	“前向きなしつけの講座”として 10 年継続開催。正規セッション連続 7 回講座で“ほめる”“教える”を通し、親子の絆を強めるスキルを学ぶ。コロナ禍 2 年目で、家庭で一緒に過ごす時間が増えることに悩む親子にスキルを届けることができた。	指導者ライセンス更新に加え、“新版”導入研修を終えた指導者 2 名が当団体に在籍しているが、指導者が研修に費やす時間と費用負担が大きい。本講座は 3～4 名に対して 1 名の指導者による個別 FB が講座内で行われており、運営人員の確保、今後の指導者育成が課題である。
CSP 体験	CSP 連続 7 回講座のダイジェスト版として開催。対象年齢に満たない方、育休中の方、ご興味のある方など幅広い方にご参加いただいた。連続講座の内容を知るための“紹介”講座の意味もあるが、正規セッションの全出席が難しい方の受け皿になっている。	ロールプレイ＝スキル練習を多く実践する連続講座に比べ、ダイジェスト版は練習が少ないが、定員を多く設けている。学齢期の親にも参加を呼び掛けられるよう広報を見直す必要がある。
親子遊びの会	コロナ禍の中で想定外に参加者が多く、集団での経験を求める親子に対し機会の少なさを実感した。連続参加や友達を誘ってくれたりという良い流れになった。	子どもの成長や発達に対しての言葉かけや対応に何かヒントになるような事や、親子での遊びが広がるような事を伝えていきたい。

すくすく親子教室	前年度に続きコロナ禍のなか、参加者は少なく1学期から3学期まで連続参加の親子が多く互いの成長を認め合う事ができた また、参加者同士での入園に向けての不安や期待を話し合う姿がみられた。	入園に向けてだけでなく、今の生活の中での子どもとの接し方等、疑問や不安を全員の問題として話し合う機会を増やしたい
すくすくクッキング	年度末2年ぶりに開催できた。旬の食材の味を活かした簡単で栄養のバランスがよい品を、色々な調理方法を使って作る点が、忙しい子育て中のママに好評だった。	以前の講座では、作ったものを試食していただいていたが、今回はこちらで用意した弁当容器に入れて持ち帰りしていただいた。ママ同士のコミュニケーションが取りづらかったので今後は出来るように工夫したい。
防災講座	つい他人事だと思ってしまうがちな防災の備えの大事さを再認識していただけた。 講義内容がバージョンアップされる点が参加者のリピートに繋がった。	以前の講座では、様々な防災グッズを実際に手に取って見られたがコロナで出来なかったため、感染状況を見ながら少しずつ出来るように講師と相談していきたい。
身体の発達講座	身体の発達の土台作りでもある生活リズムについての話を取り入れた。 6カ月未満の赤ちゃんが同室のため、実際の赤ちゃんの動きをみんなで見て、動きの説明をしながら講座をすすめることができた	未定額の赤ちゃんから、独歩可の赤ちゃんまで、対象者の幅が広いいため、内容も広く浅い内容となってしまう。
救急講座	乳幼児に特化した救急講座で、事故の対応方法を実際に目で見て確認できるので受講者に分かりやすいと好評だった。	コロナで人工呼吸や誤飲の対処法等人形を使って実践ができなかったため、今後は実践も含めた講座ができるよう感染状況を見ながら講師と相談していきたい。
絵本講座	2009年度から続く講座で、親子のよみかせによる愛着形成と親の読書活動の向上という観点から話をしているが、この講座を通し、「絵本で子育て」センターの絵本講師や、読書活動を支える担い手を目指す方もいて、地域の読書推進の根っこになっているのではと感じている。	会場の外の雑音に終始悩まされ、次回からの会場選びについてスタッフに申し送りをした。

* 独自事業

事業名	実施回数	参加者数			従事者数			
		親	親	総数	講師FA	会場係	保育	総数
ママベビ体操	9	43	43	86	9	0	0	9
ふれあい遊び	2	11	11	22	2	0	0	2
ここまでの優しい性教育講座	4	27	37	64	4	4	23	31
育てにくさを感じる子をもつママの会	2	7	6	13	4	2	9	15
不妊治療で授かったママの会	2	16	14	30	2	2	12	16
産後の心と体のメイクアップ講座	2	7	7	14	2	0	9	11
事業計	21	111	118	229	23	8	53	84

	令和3年度成果	次年度への課題
ママベビ体操	ママのストレッチや赤ちゃんと遊びながらできるママトレーニングを紹介したり、リラクゼーションの時間をとり入れている。家では自分の身体のケアはできていないというママが多く、久しぶりに身体を動かしリフレッシュできた、家でもやってみたい、との感想を頂いた	子育てに追われ、なかなか自分の身体まではケアできず、肩こりや腰痛のママが多い。産後ママの身体ケアの重要性を伝え、少しでも身体と向き合える時間となるよう内容を充実させたい。
ふれあい遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第一子の親子を中心に家の中で赤ちゃんとどうやって遊べばいいかわからない、という親達の要望に応え、わらべうたや手遊び歌を紹介、絆を深めるきっかけとすることができた。簡単な製作も取り入れ、季節感を感じる事ができた。 ・ 0歳児から講座に参加することで、ウイズアイと親子のつながりが密になった。新米ママと赤ちゃんの会を卒業した親子が集える場所になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講師1人の対応なので、赤ちゃんの安全を守れない場合はママへの声掛けや注意が必要。はいはい以降の赤ちゃん達はプレイマットからはみ出してしまおう為、部屋の配置に工夫したい。 ・ 講座の周知がされていないので、今以上に広報に働きかけたい。
ここまでの優しい性教育講座	<ul style="list-style-type: none"> ・ 性教育が生殖の性だけでなく人権やジェンダー、愛着、感情等 人との関わりについて広く知ることという理解から、日頃の子育てや自分自身への気付きにつながった。 ・ 母親としての過度なプレッシャーから解放され、まずは自分自身を大切 	講座後のアンケートで、相談したいという要望が多く講義+座談会の形式で構成し、要望に応じていきたい。

	<p>にする。</p> <p>そして子どもも同じく大切な存在であることの理解からマルトリートメント・虐待防止へとつながった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育付きでじっくりと講座を聴きワークをすることで、実生活や自分自身への振り返りや参加者同士の交流の時間をとれた。 ・思い切って性の悩みを話してくれる参加者もおられ、自分だけの悩みでないことを他の参加者にも共有共感できた。 ・ペアワークで行った伝え方の練習や、紹介絵本の数・種類を豊富に用意していたのが好評だった。 	
育てにくさを感じる子をもつママの会	参加者同士、集団生活への不安を語り合い、同じ様な悩みを共有する事で、気持ちが楽になった様子である。	2回連続講座だった。自主サークル「  はなの会」につながるよう、先輩ママとして参加していただくよう取り組みたい。
不妊治療で授かったママの会	5人に一人は不妊治療後の出産で、参加者も、妊娠に至るまでの苦労・妊娠中の不安・産後の体力不足・支援者が無いことなど、当事者の思いが出し合えた。同じ体験を共感されることで、互いにエンパワーされていた。支援する側としても、体験談を聞くことで原動力となった。	不妊治療中の方向け講座も企画したい。子どもは、一人っ子として育つ可能性もあり、この会のネットワークで、異年齢で育ちあう関係が作れるような働きかけをしていきたい。
産後の心と体のメイクアップ講座	初めて取り組んだ講座で、産後クライシスを乗り切る為の秘訣を個人ワークを通して自分を振り返れた様である。後半はママ達が自分の為に美容のプロからお化粧の仕方を学ぶ時間となり、久しぶりに女磨き・・気持ちのリフレッシュにもなりたくさんの笑顔がみられた。夫婦関係の悪化を予防・改善するヒントになった様子。	子育て中の起業を考えている方からの持ち込み企画で実現した講座である。子育て中の方達の起業や自立を応援すること、ウイズアイの中に、新しい人材を発掘し、常に新鮮で緊張感ある膠着した団体にならないようにしていきたい。

ひまわり

事業名	実施回数	参加者数			従事者数			
		親	親	総数	講師FA	会場係	保育	総数
赤ちゃんひろば	18	101	96	197	35	0	5	40
ねんね講座	1	17	18	35	1	1	7	9
CSPカフェ	1	0	2	2	1	1	0	2
清瀬転入2年未満のママの会	2	3	3	6	2	1	2	5
キラキラ家族交流会	6	21	21	42	0	24	13	37
事業計	28	142	140	282	39	27	27	93

	令和3年度成果	次年度への課題
赤ちゃんひろば	ころぼっくるから場所を移して新しく開催した。赤ちゃんひろばは未歩行の赤ちゃんのみの参加なので、近所の方が安心して通ってくれた。何度も会う内にママ同士も顔見知りとなり、会話の中から関係が深まっていると感じた。ひまわりの一時保育の案内や他の講座を案内する事ができた。	当初、参加者が最初少なかったので口コミや広報で力を入れた。その結果、人数が増えたので今後も継続する。
ねんね講座	0歳から1歳半までを対象とした。赤ちゃんの睡眠の大切さや睡眠環境の大切さを、実際に子育て中の講師に話していただくことで参加者からは共感を得られたと好評だった。	参加者より年齢・月齢で対象を分けて、その月齢のねんねの特徴や具体例について知りたいとの要望があったので、今後は検討したい。
CSPカフェ	連続講座のフォローアップ講座として開催。CSPのスキルを継続してご家庭で実践していただくための機会を提供できた。	フォローアップは継続開催が望ましいが、当団体のマンパワーや対象者が少ないことなど講座としての定期開催の難しさを感じる。
清瀬転入2年未満のママの会	広報機関が短かったためか、参加者が少なかった。参加者は、少ないながら、清瀬での知り合いを増やしていきたいと、子育て支援情報をお伝え出来た。	第1子を他市で産み育てて転入された方に、如何にあいあい通信を手にとっていただき当団体を知っていただくか、今後の課題。SNSを活用した情報も定期的に発信したい。
キラキラ家族交流会	・年度初めに、スタッフ間で医療ケアについての勉強会や参加者についての情報交換を行い、知識や共通理解を深めた。 ・緊急事態宣言中に一度オンラインにて開催をし、久しぶりの会話を楽しむことができた。	・医療ケアが必要なお子さん達なので、安全に開催するためにも、協力して頂ける看護師の確保が必要である。 ・未就学児を対象とした会だが、開催当初からの参加者の半数が小学生となり、対象者の検討が必要である。 ・コロナ禍のため、21年度は広報をしなかつ

	・クリスマスコンサートでは、プロの 声楽家の歌声を聞き、『リフレッシュで きた』『楽しかった』と好評であった。	ったが、コロナが落ち着いてきた段階で、参 加者を募り、新規のメンバーを増やしたい
--	---	---

ゆいゆい

事業名	実施 回数	参加者数			従事者数			
		子	親	総数	講師 FA	会場 係	保育	総数
ももずきん	8	35	27	62	8	0	0	8
個別抱っこ紐指導	8	8	11	19	8	0	0	8
C S P オンライン講座	7	0	14	14	14	0	0	14
事業計	23	43	52	95	30	0	0	30

	令和3年度成果	次年度への課題
ももずきん	<ul style="list-style-type: none"> ・「家族参加、パパも絵本」で、子どもの発達に気づきを得られている。 ・年齢相当ではなく発達に合わせた絵本を読んであげることができた。 ・絵本講師など読書活動の支援者を志すきっかけの場にもなってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本だけでは飽きるのでおもちゃも置いているが、ずっとおもちゃ遊びをしている子どももいて気になる。 ・毎月開催にしたが参加者0で中止になる月もあった。
個別抱っこ紐指導	<ul style="list-style-type: none"> ・新米ママと赤ちゃんの会や赤ちゃんひろば、おんぶクッキング内で、短時間の指導やミニ講座を行うことで、個別指導やサークルでの指導につなげることができた。 ・個別指導はご夫婦での参加もあり、パパが抱っこの仕方や抱っこ紐装着について学ぶ良い機会になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年々、新しい抱っこ紐、おんぶ紐が発売されており、装着方法等の把握が難しい
C S P オンライン講座	<p>オンライン（Zoom）連続講座を初開催。年明け、まん延防止法施行期間中であり、また清瀬市内小中学校が完全オンライン授業期間に、安全な環境で開催することができた。外出や乳幼児の保育に不安がある方には、一つのツールとしてご提案できる。</p>	<p>外出や人との接触を避けて開催できるが、集中できる環境として保育の提供について検討の余地がある。</p>

(3) 赤ちゃんのチカラプロジェクト事業

令和3年度成果	次年度への課題
<p>受託8年目、市内小学校9校で、各学級2時間（支援級は普通級に合流）のプロジェクトを実施。コロナ禍において事業内容を模索し、座学は当団体講師が学校で授業、赤ちゃん抱っこ体験はなし、0歳親子との交流はオンラインを導入した。GIGAスクール構想で整備されたWi-Fi環境と端末をフル活用した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Googlemeetを事前打ち合わせ、当日の交流で活用 ・Googleフォームによる全児童へのアンケート実施、集計の簡便化 ・実際の赤ちゃんとの交流に代わって、多くの動画を視聴 	<ul style="list-style-type: none"> ・心身ともに成長の個人差が大きくデリケートな話題に触れるため、学校との密な連携が必要 ・開催の決定が8月だったため、下半期の行事が集中する時期のスケジュール調整 ・赤ちゃんの居場所であると同時に、中継するためのオンライン環境が整った日程と場所の確保 ・性教育の必要性を感じつつ、小学生に可能な範囲の情報提供を行うこと

(4) 養育支援ヘルパー事業

《実績》

- *コーディネート 新規21件 再コーデ11件
- ・訪問 22件 一時保育、講座等で繋がり訪問無し 9件 ・コーディネートのみ 1件
- *訪問回数 111回 *訪問時間 302時間 *一時保育 15件
- *依頼理由(重複あり)
- ・産前産後28件・精神7件・体調不良4件・病気2件・障害 1件 ・多胎児 1件
- *その他 ・移動支援 1件

令和3年度成果	次年度への課題
<ul style="list-style-type: none"> ・当日緊急依頼にも対応し、1件も断ることなく100%訪問することができ、コロナ禍における育児不安の解消や、孤独孤立を防ぐことができた。 ・送迎をつける事で一時保育や講座、ひろばへの参加が可能になり、孤独孤立の防止と地域との繋がりを持たせる事ができた。 ・多胎児育児において、子連れの外出、特に病院受診、予防接種、健診等は大人の手が必要になる。その様な時のヘルパーの同行は、不安や緊張が緩み、安心感を得てもらえたと思う。 ・回数を重ねる事にヘルパーと利用者の信頼関係を築く事ができ、それが次の訪問に繋がり継続して関わる事が出来た。・育児疲れの方の訪問支援では、母親の希望で睡眠をとって頂いた。2回の訪問後は一時保育に預ける様になった。色々な人に頼っていいのだと感じて貰えると思う。育児負担の軽減に役立った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネートのみで繋がりをもてなかったケースが1件あり、今後は電話やメールでの近況伺いも検討していきたい ・再コーディネートにより長期にわたる訪問先には、いつも決まったヘルパーではなく、複数のヘルパーで対応していきたい。 ・ヘルパーの養成が急務であり、研修、ケース検討等も充実させていきたい。 ・今後も困った時には気軽にヘルパー依頼が出来るよう、訪問時には声かけをしていきたい。・どんな事に困難を感じているか傾聴を大切にして、利用者に信頼してもらえるように研修等あれば参加したい。

(5) あいあいちびっこルーム

令和3年度成果	次年度への課題
<p>4月1歳児2名、2歳児6名でスタート。園児の入れ替わりが続き、9月に定員12名となった。新入园児が入る度に園児の生活の仕方や保育者の関わり方、配慮すべき事柄に努力を要した。</p> <p>個別に支援を必要とするお子さんには、ご家庭と面談する機会を持ち、必要な事柄については、子育て支援課にも連絡を取らせていただき、丁寧に対応をしてみた。</p> <p>医療的ケアを必要とするお子さんのお預かりには「東京都医療的ケア児支援者育成研修」を受けたり、全職員がそれぞれの持ち場で学び、話し合い、よりよい方法を見いだそうと力を注いだ一年でもあった。</p> <p>12月22日には、開園後初めて市(東京都?)の立ち入り調査が実施された。調査に向けて書類、環境、諸々の整備が進んだことは成果と言える。保育内容については、継続して勤務する保育士が数名いることで実践から、反省評価…先へつながる見直しをすることができた。</p> <p>調査で、指摘された点は現在、改善を開始している。</p>	<p>コロナ禍は続き、身近に感染者は、確認されているが、休園の措置にはなっておらず、園を取り巻く皆様の感染予防対策に心から感謝申し上げたい。</p> <p>自粛の中、新しい試みとして2歳児クラスで、数日に分けて保育参観を実施、園の様子がわかるとご父兄にも喜ばれ、子供たちのがんばろうとする力に保育者も気づくことができた。</p> <p>このように、小規模ゆえに、細やかな対応ができ、計画から実施の迅速さも強みと言える。開園5年半目を迎え、積極的に地域の子育て支援や行事の改革等、新しい取り組みへ挑戦していきたいと考えている。</p> <p>令和4年度は、よりよい保育園を目指し、第三者評価を受ける予定である。</p>

2) 補助事業 一時保育事業・24時間緊急一時保育事業

あ い あ い

令和3年度あいあい一時保育実績

	令和3年度	前年度
実利用者数	358	276
延べ利用者数	4151	4794
(うち土日祝)	831	708
登録件数	164	-
相談件数	320	337

月別統計

	うち 初回 人数	一時 保育	月計	平日					土日祝				
				うち時間外			うち 緊急	計	うち時間外			うち 緊急	計
				9時前	17時 以降	計			9時前	17時 以降	計		
4月	94	311	311	37	46	76	2	246	16	27	34	0	65
5月	42	301	301	7	26	32	2	212	16	37	45	0	89
6月	31	314	314	9	27	36	3	275	6	17	21	1	39
7月	29	325	325	11	29	40	7	242	21	27	41	0	83
8月	28	210	210	20	32	50	4	165	10	25	30	1	45
9月	19	345	345	15	29	43	4	280	12	28	33	1	65
10月	27	406	406	28	40	66	6	310	26	49	63	2	96
11月	18	374	374	37	24	59	1	293	14	35	44	4	81
12月	23	462	462	62	53	110	8	396	10	26	35	1	66
1月	19	352	352	33	35	63	2	285	10	37	42	0	67
2月	18	328	328	25	38	57	1	267	16	31	36	2	61
3月	11	423	423	40	40	77	1	349	18	39	49	0	74
総計	359	4151	4151	324	419	709	41	3320	175	378	473	12	831

あいあい 4151人のうち

緊急一時預かり対象児童 53人

特別支援児童対象児童 障がい児 373人 多胎児 376人

年齢・理由別統計 あいあい (平日/土・日・祝日)

① 平日

年齢 保育理由	年齢						計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	
仕事	77	188	344	183	20	213	1025
育児疲れ	160	463	646	551	32	51	1903
その他	100	108	80	17	18	69	392
総計	337	759	1070	751	70	333	3320

② 土・日・祝日

年齢 保育理由	年齢						計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	
仕事	36	64	54	123	44	198	519
育児疲れ	25	45	46	23	3	31	173
その他	4	24	21	36	12	42	139
総計	65	133	121	182	59	271	831

③ 合計 (平日及び土・日・祝日)

年齢 保育理由	年齢						計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	
仕事	113	252	398	306	64	411	1544
育児疲れ	185	508	692	574	35	82	2076
その他	104	132	101	53	30	111	531
総計	402	892	1191	933	129	604	4151

令和3年度成果	次年度への課題
<p>あいあいサポートの一時保育の利用者の状況 土曜・日曜・祝日・時間外の利用者も圧倒的に仕事が多い。</p> <p>多様な働き方に応じているということが明白である。 土曜・日曜・祝日・時間外の6歳以上のお子さんの利用が大幅に増加傾向にある。日曜日や祝日は学童も利用不可であり、あいあいサポートが周知されてきたといえる。</p> <p>平日の利用者の約7割が0歳～3歳未満である。 コロナ禍で利用者の実人数は大幅に減少し、利用する子どもが固定化し一人の利用回数が多かったことが特徴である。</p> <p>①保護者や家族の病気等による一時保育 本人または家族の体調悪化等で受診による預かりが圧倒的に多い。</p> <p>②妊娠・出産にまつわる一時保育（産後ケア）～切迫流産・陣痛・出産等での上の子の保育～宿泊できる場があるということ産後ケア機能が期待される。母親の産後の安静を保障することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初産婦には安静&児の世話の方法を伝える場 ・経産婦には上の子の預かり <p>③児童相談所の一時保護の手前の支援 住み慣れた地域で子どもの環境を大きく変えることなく子どもの育ちを見守る体制をつくる。他関係機関との連携が求められる。</p> <p>④母が子へ暴力の時にタイムアウトの保証 母が我が子へ危害を加え兼ねない。「助けて」の声を拾い親子の命を守る。24時間電話が繋がることでSOSを出しやすい。</p> <p>⑤保育園の待機児童解消としての受け皿 親の多様な就労を支援している。(土日祝・早朝・夕方・夜間等24時間二一ズに応じ開所している)</p> <p>⑥実家の機能を担う役割 突発的な一時保育に対応することで親の休養を保障している。親が甘えられる場、依存を許す関係をつくることで、親の自立を助けていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近年増加傾向にある発達課題のある子どもと親への対応の仕方への難しさ ・スキル不足 ・緊急一時保育の2泊3日以上の利用は、公的な施設に繋げるように、他機関と様々なネットワークの強化を図っていく必要がある。 ・いつでも緊急保育を受けていく為に、ゆとりを持ったスタッフの配置が必要である。 ・24時間保育には栄養士等（調理）が必須 ・ストレートに養育困難家庭との出会える場であり家族丸ごと支援が求められる場である。 ・子どもを預かりながら家族との信頼関係をどう作っていくか。親対応のスタッフの育成。 ・新生児からの預かりの充実を図るために、感染症予防の徹底と助産師会との連携を強化。 ・夜間の預かり等、防犯設備などの環境調整 ・様々な課題を抱えた親子に対応する機会も多いため、スタッフのチームワークと親のケアと子どものケアが出来るスタッフの育成が求められる。また緊急時一時保育事業の際には、公的な機関に繋がっていきけるように様々な関係機関と日頃からネットワークを広げていくことが重要となる。

ひまわり

令和3年度ひまわり一時保育実績（市内外）

	令和3年度	前年度
実利用者数	175	100
延べ利用者数	2893	2334
登録件数	135	—
相談件数	181	76

月別統計

	うち 初回 人数	独自 事業	一時 保育	月計
4月	41	2	182	184
5月	11	0	213	213
6月	13	3	262	265
7月	28	6	221	227
8月	9	3	155	158
9月	8	0	274	274
10月	4	1	312	313
11月	9	0	273	273
12月	14	5	270	275
1月	11	0	179	179
2月	18	2	211	213
3月	10	0	319	319
総計	176	22	2871	2893

ひまわり

緊急一時預かり対象児童 25人
 特別支援児童対象児童
 障がい児 248人 多胎児 0人

年齢・理由別統計

年齢 保育理由	年齢							計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳 以上		
仕事	73	176	319	169	18	196	951	
育児疲れ	171	344	389	283	24	14	1225	
その他	44	273	298	34	20	25	694	
総計	288	793	1006	486	62	235	2870	

令和3年度成果	次年度への課題
一時保育 ・利用時間が8:30~17:30の認知度が上がり、利用者が増えた。 ・一時保育とプレイルームの連携が取れ、きめ細やかな保育が出来た。 ・一時保育利用者から次年度のプレイルーム利用者へ繋がった。・育児ストレスを抱えているご家庭からの保育利用が増加し、母子に対して丁寧な対応が出来た	保育室の環境改善。 ・預かるお子さんや保護者の現状把握に努め、より良い保育を提供していく。

下宿どんぐり

令和3年度どんぐり一時保育実績

	令和3年度	前年度
実利用者数	75	51
延べ利用者数	402	277
登録件数	17	-

月別統計

	市内・市外預かり件数	
	実人数	一時保育
4月	10	14
5月	0	0
6月	8	25
7月	9	30
8月	3	22
9月	4	22
10月	12	42
11月	4	38
12月	7	47
1月	3	35
2月	4	53
3月	11	74
総計	75	402

どんぐり

緊急一時預かり対象児童 0人

特別支援児童対象児童

障がい児 5人 多胎児 2人

年齢・理由別統計

年齢 保育理由	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	計
	仕事	0	3	5	10	0	0
育児疲れ	8	40	4	8	0	2	62
その他	70	68	135	25	20	4	322
総計	78	111	144	43	20	6	402

令和3年度成果	次年度への課題
<ul style="list-style-type: none"> ・下宿、旭ヶ丘方面の利用者が多い。預ける理由は様々であるが、一時保育の場所として認識されるようになってきた。 ・以前利用されていた方が、下の子が生まれ、また利用してくれる事が増えた。 ・雨の日や午後は、つどいのお部屋や、児童館で過ごす事ができ、安心安全な保育に繋がった。 ・少人数の為、個々に合わせた対応ができた。 ・秋から、1歳児の子数名を預かる曜日を設けたことで、1歳児ならではの友だちへの意識、関わりを深められた。一緒に過ごし、一緒に遊ぶ楽しさを味わうことができたのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育児が増えた時や、保育士やスタッフが休みの時の保育者の補充の確保 ・下宿地域センター利用の方が保育場所として利用しやすいよう働きかけいく

プ レ イ ル ー ム

	令和3年度成果	次年度への課題
あいあい (ひよこ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ Bコース導入初年度となったが、お迎え時間の延長といっても15時までなので乳児期の子どもが見通しを立てやすい時間であり、安心して午睡に入りやすく、午睡明けも安定して過ごせる。 ・ 保育時間、保育人数が安定しており、大人の配置人数も十分であるためか、噛みつきやひっかきなどの子ども同士の事故が年間を通してほぼ無い。(1歳児保育として珍しいことだと思います。プレイルームを広めたいと感じる一番はこの点です。)プレイルームの日課や環境は、子どもたちに負担が少ない。 ・ 配置人数が手厚く、規定以上の人数配置で保育することができ安心である。人数だけでなくできる限り同じスタッフを配置してもらえたことで育児担当保育を実践することができ、子どもたちにとって安心できる環境を設定できたと感じる。また、職員間も情報共有がしやすく保育のしやすい環境であった。 ・ 療育を学ぶことができるのは貴重な経験であり、保育者のスキルアップにつながる。 ・ 発達に課題のある子どもや、双子の子どもたちを積極的に受け入れ、手厚く保育している。子どもたちにとっては安定した集団生活や親以外の信頼できる大人との関係から成長が見られ、保護者にとっては子育ての助けになったと思う。 ・ 子どもの興味や発達課題に合わせた手作りおもちゃの質が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発達は結果であって目的ではない。目的になってしまうことがあった。(自分自身の保育の反省として。) ・ 保育の基礎や子ども理解の知識を深め、それを実践する引き出しを増やすような研修もできたらウイズアイの保育の質が高まるのではないか。「ここは保育園ではないからできない」「保育園の子たちとは違うからできない」という場面を見かけるが、子どもの遊びに関して保育者が学ぶことを恐れているようで残念に感じた。ウイズアイで、プレイルームで、できることはもっとあると思う。 ・ 「子どもに決めさせない」「大人が主導権を持つべき」「完食主義」など古い保育(育児)の考え方を変えていくべきでは。疑問を持つ保護者もいるのではないか。 ・ 様々な職員や保育児が出入りする中で、日常的にヒヤリハットを提出し合い、掲示し、共有して事故防止の意識を高めるともっと良いのではないか。 ・ “プレイルーム便り”のような手紙を配布するなどして、保育内容を保護者に伝えてみたい。 ・ 朝の受け入れ時に荷物の仕分けなどが多く、職員の手が足りなくなったり保育が手薄になるため、次年度は保護者の方に朝の支度を協力していただけるよう改善していく。

あいあい (あひる)	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて昼寝をするコースを作ったが、昼寝まで同じ部屋でいられることが多かったので落ち着いて過ごすことができた。 ・おうちでは昼寝しないという子もみんなで寝ることで抵抗はなかった。 ・忙しくはあるが子供にとってもちょうどよい時間だったと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通し人数の変動が激しかった。 ・コロナが蔓延したことで最後まで通うことができなくなった子がいた。 ・おやつの内容がチョコレートやジュースと様々だったので次年度は軽食を提案したい
ひまわり (さくら)	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースの子で、その子の能力値よりも遥かに高い能力を求められる事が多いと予想される幼稚園を進級予定だったが、度重なる面談と療育施設へのアプローチを充実した結果、本児をそのまま受け入れてくれる幼稚園への変更を保護者自身が考え直してくれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での対応が後手後手に回ってしまったので、ひまわり全体でもっとよく話し合っておくべきだった。 ・又、急遽、主となるスタッフが長期で休んだ時、残ったスタッフの負担が大きかったと感じるので、日頃から保育面は話し合っていたが、年間のやる事リストの連携をもう少し取れたら良かった。
ひまわり (けやき)	<ul style="list-style-type: none"> ・Bコース(ロングコース)を設けたことで、けやき組は以前は延長とされていた、12時45分以降のBコースの利用者が増え、妊婦さんや下のお子さんが1歳未満の家庭が多く、ニーズに合っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度の途中での入所が増え、コロナ禍における定員の見直し、状況に応じて年度の途中で2クラスに分けるなどの対応策について事前に話し合い、スムーズによりよい対応ができるようにしておくこと。

プレイルーム・一時保育従事者研修

実施日	事業名	テーマ	
6月7日 6月21日 7月5日	救急救命講座	救命講習 AEDを用いた自動体外式除細動器を用いた心肺蘇生法を学ぶ	外部
7月31日	手作り木工おもちゃ講座	元ひいらぎの田中正巳さんに講師を依頼し(打合せ6月30日)ひろばとプレイルーム合同で希望者で実技研修し、手作り木工おもちゃを作成した。	外部
9月13日	ティーチャーズトレーニング	2019年度のTトレ研修未受講者5名に1日講座として行った。	内部
9月25日	オンラインセミナー	「くるみの木の保育東京セミナー2021」 ・乳児保育の育児の基本 ・あそびの基本・あそびの見方	外部
10月11日	個別支援計画	プレイルーム個別支援計画中間発表会	内部

10月25日	研修	つどいのひろば研修「コミュニケーションの発達について」	内部
3月7日	個別支援計画	プレイルーム個別支援計画まとめの会	内部
<p>プレイルームの研修は、初めて木工の実技研修を実施した。一時保育の職員も含めて木のおもちゃを作りたい保育者を対象に行った。参加者は楽しそうにいくつか用意されたおもちゃの見本に沿って作成した。あいあいには木工機械があるので今後も活用して木のおもちゃが作成できるよう研修も取り入れていくと良いと思う。</p> <p>個別支援計画については7ケースについて10月に中間の報告、3月にまとめの会を行った。各グループで助言しながら作成し、実践しまとめる経過も7年目になり、「強味を活かす」という視点がかかり浸透していると感じ、まとめ方も慣れてきたように思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・また希望によりTトレに参加していなかった職員4人に1回でエッセンスを伝えたが、どのくらいかめたかは不明。 ・つどいのひろばスタッフからの希望で研修を行った。テーマに関しての希望がなかったので「ことばの発達の考え方」をテーマにして話した。その日の感想では、好評であった。 			